

令和2年度

事業計画

一般財団法人置賜地域地場産業振興センター

令和2年度 事業計画

自 令和2年4月 1日
至 令和3年3月31日

地場産業振興センターとしての役割である地場産業の振興を基本としつつ、地域の多様な資源を活用した商品発掘と販売、情報発信を担う「地域商社」機能を発揮するとともに、ものづくり人材育成、ふるさと納税を活用した地域特産品等のPRと販売、6次産業化の推進による新たな地域資源の創出を図る。

併せて、一般社団法人やまがたアルカディア観光局と連携し、観光まつり事業を実施する長井市観光協会としても観光振興を通じた交流人口の増加につながる事業に取り組む。

観光交流センター「道の駅 川のみなと長井」は、令和2年度から3年間、引き続き指定管理者の指定を受け、農産物、観光資源などの地域資源を発信する長井市の玄関口として管理運営にあたる。平成29年度からの3カ年度の運営内容を分析し、観光交流の拠点施設として観光インフォメーション機能の充実に努めていく。昨年中心市街地へ移転した「菜なポート」との共同催事を企画し、まちなかへの誘導の基点としての機能を一層発揮できるよう取り組む。物産販売においては、6次産業化をさらに進め、新商品の発掘・開発により商品構成の充実を図る。直売は、「菜なポート」と2店舗運営として、新規生産者の受け入れを行うとともに生産者の組織化によって、生産と販売の連携を推進する体制を強化し、農業者及び事業者の所得向上を図る。

今年度は、「東京2020オリンピック・パラリンピック」開催の年であったが、世界的なコロナウイルス感染症の拡大により、1年以内の開催延期となった。長井市では東京オリパラのホストタウンとしての様々な交流事業に取り組んできた。来年の開催に向けて、ホストタウン相手国や姉妹都市などから多くの観光客が見込まれることから、引き続き関係団体とともに観光交流事業に取り組んでいく。

東京事務所を活用した首都圏での販路拡大事業は、これまでの成果や問題点を整理した上で、長井市及びふるさと長井会などとも連携して進める。

ふるさと納税事業は新制度に移行して2年目を迎える。令和元年度は新たな返礼品の企画やふるさと納税ポータルサイトの改良に取り組んだ結果、件数、金額ともに前年度を大幅に上回った。長井市と緊密な連携を取り、寄付募集経費率5割以内を順守しつつ、市内業者・農家と一体となった新たなお礼品の企画、地域資源の掘り起こしを通して長井市で掲げた目標を達成できるよう取り組む。

インキュベーション施設であるイノベーションLab.長井i-bayは、個室利用者だけでなく共有スペース利用者増を図り、起業創業を目指す方々が集い、情報交換が行われる場を創造することで起業創業を支援する。併せて、第4回ビジネスチャレンジコンテストを開催し、地域産業にIT、IOTの視点を取り入れ、society5.0に向けた地域ビジネスモデルの再構築を目指す。

TASビルは、築後30年以上が経過しており施設設備の老朽化が著しいことから、TASビル全体の改修が急務となっている。今年度は、TASビルが持つ機能と将来像を区分所有者である長井商工会議所、TASパークホテル、山形信用保証協会、そして出資団体である長井市と議論を重ね、TASビルのリノベーション計画を策定する。併せて、リノベーション費用に必要な財源を確保するため、国の地方創生拠点整備交付金事業の採択を目指す。

1. 人材育成事業

地域における人材の育成、技術力の向上、産業交流による地域活性化を図ることを目的に、継続事業の実施と新たな事業展開を図る。地域企業への貢献を果たすべく、地域企業者、教育機関等との産学官連携を図り、技術者の交流の機会を設定するなど、ネットワークの拡大と地

域への波及効果を上げる取り組みを進める。

また、小学生を対象としてものづくりの楽しさと科学技術への理解を深める事業も継続する。

(1) 置賜ものづくり地域創生支援事業(山形県・長井市補助事業)

地域において産業を支える若手技術者や次世代のものづくり人材の育成及び産学連携の促進によるものづくり技術力の向上を推進していく。

○目標実施事業数 8事業(令和元年度実績 8事業)

(2) マイクロマウス技術普及啓蒙事業

当センターの特徴的な事業であるマイクロマウスを通じた人材育成事業については、(公財)ニューテクノロジー振興財団、マイクロマウス委員会東北支部との連携を図り、マイクロマウスの普及と関連事業の継続発展を目指す。

大会においては、東北地区大会はもとより、他支部大会への参加も視野に入れ、地元マウスのレベルアップを目指す。

また、マイクロマウスを通して培った関連企業との接点を一層深めることで、具体的成果を上げることを目指す。

① 小学生を対象とした講習会「少年少女ロボットセミナー」の開催

ロボットの製作を通してものづくりの楽しさや難しさを体験する中で、創造力と探究心を養い、向上意欲を図る。指導は、長井工業高校生やボランティアの協力を得て行い、内部指導体制の強化とセミナーの充実を図る。

・開催期日 令和2年12月19日(土) <予定>

・会場 タス2階 ホール

○目標参加者数 親子40組(令和元年度実績40組)

② 技術交流会の開催

マイクロマウス委員会東北支部の協力を得て、知識習得と新たな技術者を生み出すきっかけの場としてマイクロマウス技術及びロボット技術の講習会を開催し、技術の普及とレベルアップを図る。併せて、ロボット関連企業技術者との交流を通して市内企業との接点を持つ機会を多く作り、コネクションの充実を図る。

○目標開催回数及び参加人数 1回 30人(令和元年度実績 1回 20人)

③ マイクロマウス東北地区大会

東北地区に限らず全国のトップレベルが集う大会を目指して関係者に働きかけを行い、日本各地から数多くの参加を得る。レベルの高い大会を開催することにより、マイクロマウス競技の一層の普及と参加意欲の醸成、波及を促す。大会終了後に交流会を開催し、マイクロマウスについての情報交換を深めてもらうとともに、意欲ある地元製作者への支援を行い、長井の産業を支える人材の育成と地域のPRを積極的に行う。

・開催期日 : 令和2年10月11日(日) 試走会 10月10日(土)

・会場 : タス2F ホール

○目標参加台数 60台(うち長井市内 5台) 令和元年度エントリー 53台(うち長井市内2台)

④ ナガレンジャー・ファイティングフェスタ(ロボワン)の開催

2足歩行ロボットによる競技大会(種目:かるた、サッカー、バトル等)を開催する。
あわせて、県内外の若手企業人・技術者のネットワークを広める場としていく。

○目標参加台数 15台(令和元年度エントリー 12台)

2. 地域活性化事業

タスを活用して、地域の活性化に資する事業をタス入居団体と連携して実施していく。

(1) T A S 元旦祭、第33回書き初め大会、ながい雪灯り回廊事業、けん玉普及事業

元旦祭は、これまでどおりタス入居団体と連携し、道の駅川のみなと長井での元旦イベントとも調整を図りながら実施する。

雪灯り回廊事業は、市内を会場とした雪灯り回廊まつりに協賛し、タス入居団体が協力してランタンを製作することでまつりを盛り上げる。

書き初め大会は、お正月の行事として市内書道塾の協力を得て引き続き実施する。

けん玉普及事業は、けん玉の魅力PRに努めるとともに、けん玉協会長井支部並びに教育機関と連携し、けん玉ペインティングコンテストを引き続き実施する。

(2) ながい産業博開催事業(共催)

長井商工会議所が主催するながい産業博の共催団体として、商工会議所各部会、西置賜産業会等で構成する実行委員会に参画する。i-bayの入居者に積極的な出展を呼びかけ、「i-bay」ブースを出展しPRを図る(令和元年度は、1者が出展)。事業実施にあたっては、道の駅「川のみなと長井」でも連携した取り組みを行う。

3. 情報発信事業

(1) 地域情報化情報発信事業

幅広い年代層に対応できる検索のしやすさと、きめの細かさのあるホームページ作りを行うことで、サイト訪問者の増加と、リピート閲覧訪問者を飽きさせないタイムリーな情報更新に努める。当センター東京事務所や、やまがたアルカディア観光局と連携を図り、イベントや観光について緻密な情報交換を取りながら、タイミングよい適切な情報を発信していく。

○目標情報提供数

○ブログ 週6回 ※Facebook、Twitterにもブログ記事を転載

○メールマガジン発行 月2回

(2) ながいファン倶楽部運営事業

年々、会員の年齢上昇が進んでいるのが現状である。既存会員のニーズに応えながらも若年層にアピールできる時代にマッチした新情報の即時配信を目指す。

長井を訪れる観光客の増加を目指すため観光やイベント、物に加え、この地で暮らす楽しさや醍醐味など、「人」や「場所」に関わる「魅力ある長井」を積極的に紹介していく。

○目標会員数 2,800人(R2.2月末実績 2,693人)

4. 需要開拓事業

(1) 特産物普及振興事業

① ふるさとショッピング事業

顧客の維持と継続的な購買に繋がる対策が不可欠である。インターネットを使用しない年代層とのより円滑な取引方法として、はがき・電話注文に加えて、FAX 用紙の導入などを行ってきた。引き続き、注文手続き方法の改善・簡略化を図っていく。

また、長井に馴染のない人や若年層に対し、新しい切り口での関心を抱かせる紹介をして行くことが須要である。新商品の発表や発売などにも積極的にアンテナを張り、商品だけでなく商品に関するプロセスやシナリオ、作り手の思いなども含めてブログや SNS で発信するほか、年 3 回通販チラシを作成・郵送し、デジタル・アナログ双方向での展開で顧客の獲得・維持を図る。

○目標売上金額 8,452千円(R2.2月末実績 7,863千円)

② ふるさと納税関係事業

ふるさと納税関係業務を市から受託して6年目となる。具体的な業務は、納税の受付、記念品の発注、礼状の発送、証明書の発行や確定申告不要のワンストップ制度の一連作業を行っている。

令和元年度は、参加業者と個々に商談・打ち合わせを重ね、新規商品の掘り起こしに力を入れた。加えて、商品の見せ方（商品画像、説明文書など）を改良し、商品の魅力をより発信できるよう工夫した。その甲斐あってか、納税件数・寄付額ともに前年を大きく上回る結果となった。2年度は、新たな意欲ある業者を広く公募するとともに、取引業者のふるさと納税に対する理解や意識の向上を図り、業者と協議・協力しながら取り組んでいきたい。

○ふるさと納税お礼品受注目標

45,500件、204,750千円(R2.2月末実績 32,243件、127,875千円)

(2) 首都圏販路確立及び首都圏交流事業

① 東京事務所運営事業

長井市と連携して大田区との交流拡大に取り組むとともに、「ふるさと長井会」運営への協力を通して首都圏の長井市出身者との交流を深めることで、ふるさとへの関心度を高め物産販売やふるさと納税へつなげる。併せて、HP のブログ、フェイスブックによる積極的な情報発信により東京事務所の存在意義を高める。

また、大田区を中心とした催事での物販には積極的に取り組むことで、物産のPRと長井市の認知度向上を図る。

○目標情報発信数

* ブログ 週1回以上

* フェイスブック 週3回以上

② 大都市圏販路拡大事業

大田区等で開催されるイベントへの積極的な出店とともに、池上本門寺朝市は常連客の意見を取り入れて一層の売上増を目指す。ドン・キホーテ大森店での常設販売は、売れ筋商品を中心とした品揃えとして売上増を目指すとともに、要望のあるイベント出店

についても市内業者の協力を得て実施する。

南北中学校修学旅行時の販売体験は、長井南中学校が蒲田駅西口広場、長井北中学校が梅屋敷商店街で実施している。この販売体験は、中学生に地域の物産品に対する理解を深めてもらうことと物産販売を通じた地域産品PRの機会と捉えて、教育委員会と連携して東京事務所とともに協力する。

○目標物産販売出店回数及び金額 25回 5,500千円
(R2.2月末実績 19回 4,780千円)

5. 施設営業事業

タス施設の稼働率を高め施設全体の活性化を図るため、長井商工会議所、市担当課、タスパークホテルでタスビル活性化委員会を設置して、今後の活性化策を策定することとした。基本は、タス施設の強みを生かしたコンベンション機能の充実として、官民を挙げた取り組みを目指している。

貸し出し施設の什器備品の中には老朽化により不具合の生じているものもあるので、ホテル等の意見も聞いた上で計画的な更新を進める。

施設の老朽化に伴い機械設備、消防保安設備の更新、修理など適切な対応が必要になっている。タス4団体の会議を定期的で開催して修理等の優先順位を検討した上で遅滞なく実施する。

6. インキュベーション施設(イノベーションLab.長井 i-bay)

イノベーションLab.長井 i-bayは、個室利用を希望される方は多いが、共有スペース利用については会員確保に苦労している現状である。共有スペース会員確保に向けてこれまでも認知度向上に努めてきたが、なかなか成果としては表れていない。

今年度は、i-bayを会場にしたセミナーを複数回開催することで、一般の方がi-bayに足を運ぶ機会を創出する。その他、今後も会員獲得に向けた新たな取り組みを検討・実施していく。

○目標

*入居者確保 個室ブースの満室化、共有スペース会員 10名以上
(R2.3月実績 7人(団体))

*創業支援 インキュベーションマネージャー個別相談 月1回 [各入居者(団体)]

○第4回長井ビジネスチャレンジコンテストの開催

若者や移住者等の起業を促進、新たな「こと」起こしの促進、地域産業・資源を見直して新たな気づきを得る機会の創出、インキュベーション施設イノベーションLab.長井i-bayの利用者増加を目的としてビジネスコンテストを開催する。

スケジュールは以下のとおり。

- ・募集(エントリー)期間 8月～10月
- ・書類審査会 10月
- ・ブラッシュアップ合宿 1月
- ・ファイナルイベント 2月

○目標 エントリー件数 30組(第3回コンテスト実績 26組)

7. 長井市観光交流センター(道の駅「川のみなと長井」)運営

道の駅「川のみなと長井」の運営の基本方針は、交流人口を活用し産業振興のきっかけとすることである。そのために、観光交流センターが「楽しい出会いがあるところ」のイメージを定着させ、「まず寄ってもらい次に巡ってもらうための、地域に根付いた道の駅」を目指し、地域観光資源と地域の人との交流機会を創出するとともに観光交流の拠点としての役割を果たす。

観光交流センター『道の駅 川のみなと長井』の指定管理業務を二期目の受託となる。

川のみなと長井にしかない商品開発を生産者とともに取り組み、地域特産物等の販売力を強化するとともに、他地域の道の駅との人的・物的交流を推進し、新たな魅力ある商品と情報を提供する取り組みにチャレンジしていく。

四周年を迎えるにあたり、前年度の販売情報の活用を図り、来店されたお客様により楽しんでいただくことを念頭に、商品構成や販売量・陳列場所等を時期に合わせ臨機応変に対応し、来店されたお客様へは『一期一会』の気持ちでの『おもてなし』を心掛けリピーターの創出に繋げていく。又、新規登録者の拡充も進め、新たな発見を売り場に作り楽しんで頂く工夫も取り込み目新しさを訴求していく。

やまがたアルカディア観光局との連携した取り組みを継続し、又、二年目となる電波媒体を活かし対外への情報発信力を高め、新たな客層及び地域からの誘客に積極的に取り組んでいく。

○目標売上額額 250,000千円(R2.2月末実績 235,135千円)

(1)物産直売部門

① 物産部門

四年目を迎えお客様に好評を得ている地元商品については、前年までの実績を基に今年度も取引先と密に連絡を取り合い欠品の無いよう準備し、お客様の声を取り入れ、飽きのない商品展開をし、さらなるリピーター確保に努める。同時に新規取引先の開拓も積極的に対応していく。それぞれの部門間の連携を密にとり「おもてなしの心」を大切にお客様に喜んでいただくことができるよう、接客・居心地の良い店舗づくり・充実した品揃えを心掛け、季節感のあるディスプレイで、地元のお菓子を中心に販売促進とPRに努めていく。また、お客様に満足いただける『長井らしさ』『ここでしか買えない』商品開発について、地元の出品者と協働で取り組む。

○目標売上額 84,000千円(R2.2月末実績 80,718千円)

② 直売部門

前年度の反省点を踏まえて、新規登録者の受け入れを積極的に行い、商品の量的拡大と品種の豊富さを目指す。また、今年度は7、10月の2回『収穫祭(顔の見える農産物)』を企画実施予定。収穫祭を通じ、地元農家とその優れた農産物を身近に感じてもらうことで、農業者所得の向上と、固定客の増加をを目指す。

出品者に対しては、高品質の地域農産物の品揃えと安定供給を維持させる努力をお願いし、商品・価格・規格等での密なコミュニケーションを図る。

直売施設に求められることは、農産品・加工品・食文化をはじめとする地域資源を、市民はもとより県内外の観光客に向けて発信し、認知度を高めることにある。

特に、伝統野菜に代表されるような地域性の強い商品の量的確保を目指すとともに、6次化商品の開発・販売にも販売する側の意見を積極的に発信し、お互いの共同作業とし取り組んでいく。

菜なポートとは、互いに必要な情報を共有し、多様な客層・ニーズに連携して対応する体制を確立する。

○目標売上額 134,750千円(R2.2月末実績 125,899千円)

(2)フードコーナー「ラ・ベール」

フードコーナーのメニューは、可能な限り地元産食材を活用したオリジナリティのあるものとし、利用者の嗜好や意見を参考にして見直しを実施してきたが、今年度も季節毎にメニュー変更(春・秋)を実施する。前年度の実績より軽減税率制度に伴い、食券販売機を1台導入し、作業と人員の効率化を計る。ファーストフード販売も好評を得たメニューを増やし、春からの繁忙期に対応していく。

また、原価率の改善を図るため、より効率的な発注と在庫管理を目指す。

○目標売上額 31,250千円(R2.2月末実績 28,293千円)

(3)まちづくり紹介コーナー

市内で芸術文化活動、地域づくり活動を行っている個人、団体等に呼びかけをして週・月替わりでの展示を行うとともに、やまがたアルカディア観光局、長井市観光協会と連携して、祭りや文化財などの紹介展示を行う。

○目標イベント開催回数 40回(R2.2月末実績 37回)

(4)観光インフォメーション

観光インフォメーション機能は、観光交流推進部とやまがたアルカディア観光局、長井市観光協会が一体となって運営するとともに、黒獅子の里案内人と連携して観光客の街なか誘導に積極的に取り組む。また、観光情報発信の拠点として、市内観光だけでなく広域観光案内機能の充実を図る。

○目標街なか誘導観光客数 18,000人(R2.2月末実績 17,557人)

8. 市民直売所菜なポート運営

菜なポートは、これまで地域の農業振興や経済活性化、地元食材を通じた人的交流の場としての役割を担ってきた。

昨年11月、まちなかに店舗を移転して以降来客数が確実に増加している。今期は農産物・加工品に加え鮮魚・精肉等の品揃えをさらに充実させ、消費者へ満足していただける安全・安心な商品を提供し集客力を高め、まちなかの活性化に寄与する。

併せて、より地域に密着した生活店舗としての役割も要請されている。近隣住民の日常の買い物の拠点として利便性の向上に取り組む。

観光交流センター「川のみなと長井」と連携して、地産地消・地域の食の情報発信拠点の一つとして、消費者・出品者双方の視点に立った運営を継続する。また、市内産青果物・加工品の入荷量を増やすため新たな出品者の登録を今後も進める。

学校給食への食材提供は7年目を迎える。調理場職員とともに先進地視察を行い、地元農産物使用率向上に力を注いでいく。引き続き不良品ゼロを継続できるよう、農林課担当職員及び調理場と連携し積極的に取り組み、より多くの農家に協力を呼びかけ供給量の増加を目指す。

○目標売上額 200,000千円 (R2.2月末実績 161,716千円)

9. 長井まちづくり基金

令和元年度末の基金残高は約63万円で、民間都市開発推進機構拠出分は、平成27年度で無くなった。令和2年度は新たな助成を行わず、平成30年度・令和元年度の成果発表会を行うと共にこれまでの助成報告書をまとめ冊子を作成する。

① 基金の状況

- ・ 令和2年度末基金残高(予定) 0円
- ・ 残高内訳 民間都市開発推進機構拠出分 0円
市及び市民・事業所拠出分 0円

10. 中心市街地活性化に関する事業

中心市街地整備推進機構として、中心市街地活性化協議会運営で商工会議所と連携するとともに、事業実施にあたっての具体的な係わり方について関係機関等と調整していく。

中心市街地活性化基本計画の事業に位置づけられた観光交流センター道の駅「川のみなと長井」の指定管理者としての運営とともに、タス再生整備事業についても具体化に向けた対応を検討していく。

平成30年8月より、本町のcross-baの1室を賃借して「まちの駅」を運営してきたが、このたび民間企業が当該スペースに出店する予定であることから、「まちの駅」の機能をcross-baから菜なポートに移設することとした。引き続き、道の駅川のみなと長井から街中へ人の流れをつくり、賑わいを創出していく。

11. 観光振興に関する事業

(1) 長井市観光協会事務局

- 観光振興は、地域経済の更なる活性化に寄与していくものであり、本市の有する観光資源の効果・特性を最大限に活かしたまつり事業運営を推進し、観光の持つ多様な効果が、地域の魅力向上に作用するよう、本市のブランド力を向上させていく。
また、住民が地域の魅力を再認識し、お客様との交流を深めながら地域ぐるみ観光サービスの確立を目指し、観光産業関係団体の不断の協調と組織の役割を明確にした協同活動へと進展させ、住民の積極的な参画を促しながら受入態勢の充実を図る。
- 地域の主体性を活かしたまつり事業を推進するため、これまでの事業実績を基に各委員会での活発な協議を進めながら、安心・満足できる的確な情報発信の提供に努め、観光拠点としての魅力向上と次世代に活躍できる観光組織としての地盤を構築する。
- 国内及び訪日外国人観光客の誘客拡大に向けたプロモーション活動については、やまがたアルカディア観光局及び、置賜さくら回廊観光推進会議、置賜地域インバウンド促進会議と広域連携を軸とした営業活動を推進。
- 東京 2020 オリンピック・パラリンピックに伴う国際交流イベントへの協力とインバウンド受入態勢の仕組みを進展させていく。

1) 基本施策

①まつり事業の魅力創出

まつり事業の更なる充実と地域の特色ある「食」や「物産」等地、地場産業への波及効果を高める。

②観光案内・受入体制整備の充実

やまがたアルカディア観光局との情報共有を強化し、誘客事業並びに受入態勢を更に進展させるとともに、総合観光案内業務の充実を確立させ、観光サービスの質の向上を図り、交流人口の拡大を目指す。

道の駅川のみなと長井との相乗効果が得られるよう、着地情報提供を充実させる。

③地域住民の主体性・地域力の推進

地域ぐるみ型観光サービスの取り組みを推進するため、市民参加による賑わい作りを積極的に支援する。

④観光誘客活動の促進と受入体制の整備

首都圏をはじめ隣接県、訪日外国人観光客の誘致促進と受入体制の整備について、置賜地域内の情報共有に努め、連携した取り組みを更に強化した事業推進を図る。

⑤観光協会組織強化・人材育成強化

会員事業所様の観光に対する意識の向上を図り、ご支援を頂きながら地域経済への波及効果を高めるため、更なる会員増強を目指した事業展開と人材育成を強化する。

2) まつり事業日程(予定)

◆花を中心とした事業

- ・置賜さくら回廊 期間／4月中旬～下旬 ※10日オープニングセレモニー

2市1町での連携強化及び隣接県個人客誘客活動

- ・白つつじまつり 期間／5月10日(日)～31(日)
- ・あやめまつり 期間／6月13日(土)～7月5日(日)

隣接県個人客誘客対策の継続強化/賑わいの創出

- ・あやめ賑わい市 期日／6月28日(日)
- ・長井おどりパレード 期日／7月 4日(土)

◆伝統と資源を活かした事業

- ・ながい黒獅子まつり 期日／5月23日(土)
- ・ながい水まつり 期日／8月 1日(土)

最上川花火大会

3) 観光宣伝と観光客誘致事業

やまがたアルカディア観光局との取り組みをより推進しながら、まつり事業の充実を図り当地域独特の観光資源を活かしたイベント企画を実施し、滞在型交流観光と受入態勢の進展に努める。

また情報の一元化に努め、総合的な観光案内業務の取り組みについても共有を図る。

・広報物作成

長井市総合パンフレット／あやめリーフレット

観光誘客ポスター作製

・観光誘客

低迷している個人客の誘客として、隣接県を中心としたPR展開を継続し実施する。

エージェント対策としては、やまがたアルカディア観光局と連携を更に強化し、広域連携を主軸とした取り組みを継続し、受入態勢の充実を図る。

訪日外国人観光客誘致については、これまでの実績に着実に積み上げが出来るよう置賜さくら回廊観光推進会議、置賜地域インバウンド促進会議と連携し積極的なエージェントへのアプローチと情報共有に努める。

・都市交流

姉妹都市結城市での物産販売において、地域特産物の紹介と共に交流を深め長井観光をより広くPRできる場として積極的に推進する。（物産販売）
フラワー都市交流総会への参加

4) 観光美化推進事業

・長井市花いっぱい街づくり推進事業（愛称：花いっぱい運動）の実施において、当協会もまちなかの景観創造として「花の長井」の文字通り更なるイメージ向上を図る支援事業と、参加団体の活動の継続と今後への更なる奨励、また、より多くの市民参加の意欲高めるため、団体賞を授与し周知をより浸透させていく。

5) 冬季観光推進事業

・ながい雪灯り回廊まつり 期日/令和3年2月6日(土)
やまがた冬のあった回廊キャンペーン実行委員会と置賜地域全体での広域連携を更に推進し周知拡大に努める。また、より多くの市民の皆様が参画できる体制を構築し、市民主体の手づくり感あふれるまつりとして地域の良さを全面にアピールし、街なかを周遊できる仕組みを確立し、各商店街や地域との連携を強め魅力の創出を推進する。

6) 広域観光協議会への参画

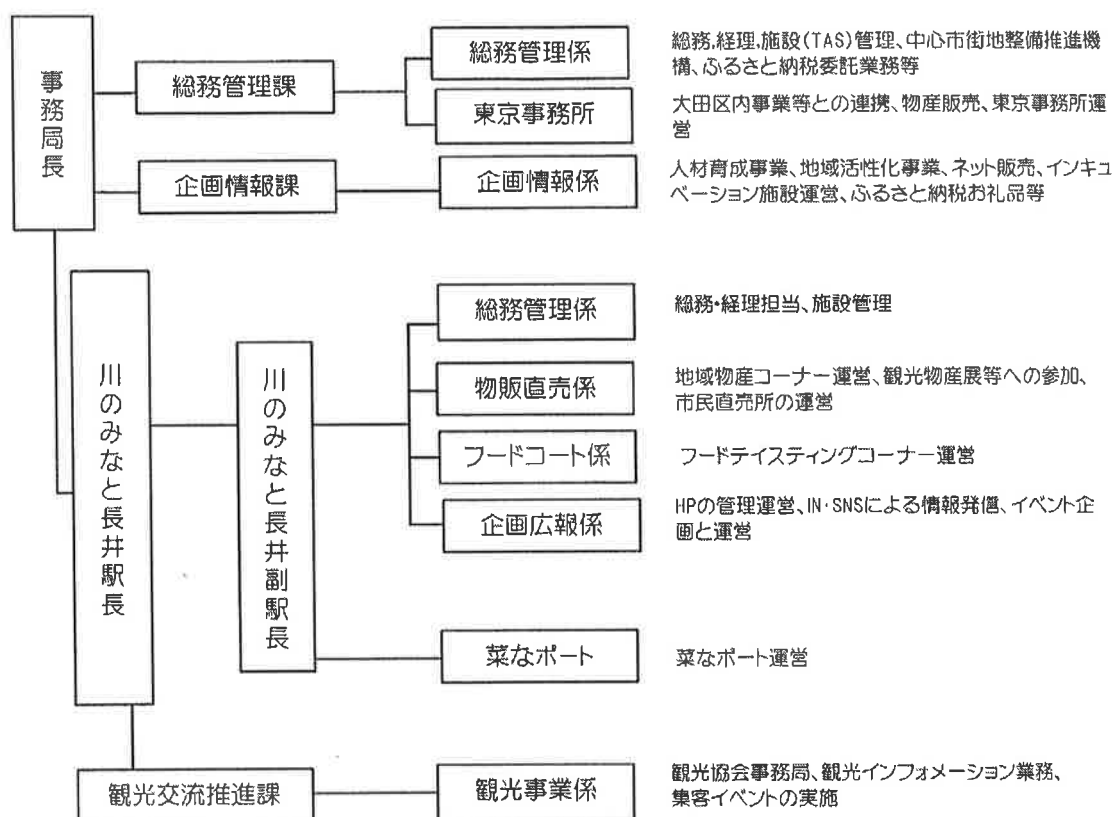
山形県及び置賜広域観光協議会に継続的に参画するとともに広域連携の体制整備の強化と情報交換・共有に努める。

12. 事務局組織

事務局が地場産業振興センター施設(TAS)、道の駅川のみなと長井、菜なポート南店の3カ所に分かれての運営であることから、情報の共有と連携が重要な課題となる。また、職員数は40名弱となり、組織のガバナンス確保が課題となることから、部門毎に正職員を配置するとともに、部門毎の定期的な調整会議と係長級以上による内部調整会議を毎月開催して情報の共有と連携を図る。

本年度において職員採用はなかったものの、各部門に正規職員を複数配置するため計画的な採用計画を整える。また、労働契約法の規定による有期雇用職員の無期雇用転換の導入により有期雇用職員のモチベーションのアップを図る。

令和2年度 事務局組織及び人事配置



《職員の内訳》

- ・総合職 7名
- ・専門職 5名
- ・市派遣 2名
- ・特任職 3名
- ・定型スタッフ(無期) 1名
- ・ " (有期) 9名
- ・パートスタッフ 9名 計36名
- ・長井市からの業務協力 2名 (TAS リノベーション・ふるさと納税)